

大学スポーツの政策  
-日本式 NCAA の提案-

早稲田大学 武藤ゼミ 2  
○岡島道雄 小林格 南部圭吾 長谷川雄大 藤田隆之

1, 日本式 NCAA の政策的な目的

アメリカには NCAA という大学スポーツを統括する全国的な組織が存在するが、日本には大学スポーツをすべて統括する団体は現在存在しない。各学連が大会を運営している状態でありその規模は小さいものになっている。そこで、大会や放映権などを統括する組織の必要性を感じその実現に向けた施策を見出したいと考えた。そしてなにより大学スポーツへの注目度は低いと言わざるを得ない。高校で高いレベルにあったアスリートの進路はプロもしくは実業団などがまず第一にあり大学スポーツがなかなか入り込めないのが現状であると感じた。私たちはこのように注目度がまだまだ低い大学スポーツを強化することが政策的にも必要であると考えた。

スポーツ基本法第 3 章、第 3 節に

(優秀なスポーツ選手の育成等)

第二十五条 国は、優秀なスポーツ選手を確保し、及び育成するため、スポーツ団体が行う合宿、国際競技大会又は全国的な規模のスポーツの競技会へのスポーツ選手及び指導者等の派遣、優れた資質を有する青少年に対する指導その他の活動への支援、スポーツ選手の競技技術の向上及びその効果の十分な発揮を図る上で必要な環境の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 国は、優秀なスポーツ選手及び指導者等が、生涯にわたりその有する能力を幅広く社会に生かすことができるよう、社会の各分野で活躍できる知識及び技能の習得に対する支援並びに活躍できる環境の整備の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

(企業、大学等によるスポーツへの支援)

第二十八条 国は、スポーツの普及又は競技水準の向上を図る上で企業のスポーツチーム等が果たす役割の重要性に鑑み、企業、大学等によるスポーツへの支援に必要な施策を講ずるものとする。

という条文がある。

大学スポーツを強化することは第 25 条の優秀なスポーツ選手の育成の項目に該当すると考えられる。なぜなら、オリンピックなどの世界レベルの大会において大学生の日本代表選手が数多く存在しているからである。しかし、そのような事実があるにも関わらず現状日本の大学スポーツに対する注目度が低いことは否めない。そして、第 28 条では、国が競技水準の向上を図る上で大学スポーツに対して必要な施策を講ずるものとする明記されている。私たちはこの必要な施策という言葉に注目し日本式の NCAA を作ろうという考えに至った。この研究では、その日本式の NCAA の必要性やメリット、運営方法などに触れその実現性について言及していきたいと考える。そのためにまず、アメリカの NCAA がどのような構造で、どのような歴史的な背景を持っているかを簡単に説明する。

## 2, NCAA とは

ではまず、NCAA とはどのような組織なのかをその歴史とともに見ていきたい。NCAA(National Collegiate Athletic Association)とはアメリカのカレッジスポーツを統括する組織であり 100 年以上の歴史を誇る団体である。アメリカンフットボールや男子バスケットボールなどの一部競技においては、リーグ戦がテレビ中継されるなど人気が高いものになっている。NCAA が統括している競技はアメリカンフットボールや野球のようなメジャーな競技からマイナーな競技まで 23 の競技で 88 の大会を運営している。さらに、この大会には 1200 校以上の大学から、4 万人以上の学生が参加しており、NCAA の規模の大きさがうかがえる。また、学業の面でも一定の成績を収めなければ大会に出場できなくなるなど学業の面の充実も意識して組織運営を行っている。NCAA は 1906 年 3 月 31 日に IAAUS(Intercollegiate Athletic Association of the United States)として設立され 1910 年に現在の NCAA という名前に改称された。結成当初は協議に関する討議とルール作成を行う団体であったが、1921 年に初の全国選手権大会が開催され徐々に多くの統治委員会がつくられ、各地で大会が開催されるようになった。1973 年に規定の基準によりディビジョン分けがなされ今に至る。このようにアメリカの NCAA は長い歴史があり日本の大学スポーツとは性格が大きく違うこともわかった。以下、日本式 NCAA はどのようにあれば良いのかを考えていく。

## 3, 日本式 NCAA のメリット

日本式 NCAA を作ることでどのようなメリットがあるのかまた必要性やデメリットについて考えていきたい。メリットとしては、まず放映権を各競技ごとではなく一括で統括できるということだ。ここで出てくる問題としてどのようにその放映権を分配するかということであろう。その問題点に関しては 4 の部分で具体的に触れる。この効果としては、放映権を一括で管理できることによって今まで注目されていなかったマイナーな競技にも目を向けてもらうチャンスができるということであろう。メジャーな競技の放送とマイナーな競技の放送を 1 つのバックとして売り出すのである。

次に挙げられるメリットは総合的に大学スポーツを盛り上げられるということだ。詳しく言うと、今まで各競技ごとに行われていた大会を一つにまとめて行うことで規模が増すということである。この件に関しては 5 において具体的に述べる。

また、次にあげるメリットは、普段あまり使用されていない競技場を使用するということである。日本には公営の運動施設が数多く存在している。このような運動施設を NCAA の大会で積極的に利用していくのである。東京都のスポーツ施設サービスのホームページを見たところ、62 もの施設があった。すべてが大学スポーツの求めるレベルの施設ではないにしろこのような公営施設を利用しない手はない。また東京都の例になってしまうが、国立競技場など公営のスタジアムを中心とした大会運営などもできると考えられる。以上のようなメリットが挙げられようだろう。この章ではメリットを考えてきたが次の章では、どのように日本式の NCAA を実現すれば良いのかを考えていく。

#### 4, 実現可能性や必要性

現状日本の大学スポーツを束ねる組織が存在しないことは先にも述べた。各競技の学連が存在していてそれぞれで運営しているのである。いきなりその全てを一つにまとめるというのは不可能な話であると考えた。そこで日本式の NCAA で NCAA 特有の大会を開催しそこで出た放映権などを各競技の連盟に分配するという方式を取ることが良いのではと考えた。各学連の大会以外に NCAA が運営する大会を開催するというものである。NCAA が大会の運営をし放映権を管理しそれを均等に分配すれば 3 で話していた放映権の問題も解決できるのではないか。では、大会を運営するにあたりどのように資金を集めるかを考えていきたい。まず、政府からの支援が大きな財源の一つとして考えられる。冒頭でも書いたが、政府はスポーツ基本法の中で大学スポーツの発展のための支援をすると書いている。そこで政府に資金の支援を行ってもらおうのである。また、加盟料や会員費を各大学からとりそれも大会の資金として利用するということもできる。また、企業に大会のスポンサーになってもらうことも資金集めのためのひとつの策となる。資金が集まっても参加大学がなければこの日本式 NCAA は始まらない。どのように参加大学を募れば良いのかも考える。大学側にとって参加するメリットは NCAA から放映権料の分配を受けられということがまず一つ挙げられる。その放映権料を大学の部の強化費や大学のスポーツ施設の充実に充てられるというメリットがある。また、テレビ放送されることで大学の知名度のアップにもつながりこれは大きなメリットとなる。このように実現の可能性を考えてきたが次の章では実際にどのような特有の大会を運営するのかを考えていこうと考える。

#### 5 日本式 NCAA の運営方法

アメリカでは、大会運営はディビジョン 1、2、3 と分かれている。学校の学生数、使用するアリーナ、もしくは体育館の収容人数、立地している所のコミュニティの規模や歴史など、いろいろな要素を考慮してディビジョン分けは考えられている。日本式 NCAA ではどのような大会を開催するかと考えた場合私たちは大学間のオリンピックという企画を考えた。このオリンピックは、全国の大学に出場権がありメジャーなスポーツからマイナーなスポーツまで多くのスポーツを行うこととする。例えば、金メダルが 5 ポイント、銀メダルが 3 ポイント、銅メダルが 1 ポイントなどとポイント制で各大学がすべての競技の総合ポイントで争うという方式をとる。この方式をとり金銀銅以外にもポイントを与えるようにすれば大学間の白熱した争いを期待することができる。そして、このオリンピックをテレビ中継するのである。通常のように各競技ごとに中継を行った場合人気のある競技とあまり認知されていない競技の間で差が出てしまう。しかし、オリンピックとして一つの大会にまとめることでパッケージ化ができる。さらに、オリンピックのポイント制という習性はマイナー競技への注目を集めるための大きな理由になる。ポイントがあるという事実によりマイナー競技を軽視できなくなる。すべての競技が優勝争いに関わってくことで必然的にマイナー競技でも注目度がアップするのである。そして、この全国規模のオリンピックに参加することは大学それ自体にとっても非常に効果があることである。それは、注目度が全国レベルになるからである。テレビ中継されるオリンピックに出るだけでも大学の認知度のアップにつながり受験生が増えること、優秀なアスリートの獲得に相当な効果を期待できる。また、中継内で各大学の特色や普段の授業の様子、一般の大学生の生活などをアピールする場を設ける。このようにすることでより多くの人に興味を持ってもらい今まで知らなかったような大学を知ってもらう機会を設けるのである。

## 6 まとめ

日本とアメリカでは学連という組織と NCAA という組織が大学スポーツをまとめているということでそこに大きな違いがあった。日本式の NCAA は学連すべてを統一するのではなく独自の組織として新たに大学間オリンピックなどの大会を運営することで大学スポーツ界に新たな風を吹き込み人気向上することになれば日本式 NCAA の目的は達成されたといってもいいだろう。人気向上することで注目度は上がる。そこからより多くの大学が参加しレベルの向上を図ることができればそれは国のスポーツ基本法の 25、28 条に沿うものになるだろう。このように政策的にも日本式 NCAA を作ることはメリットがあると言えるだろう。

### <資料・文献>

宇津木慶子 「日本の大学スポーツにおける統括組織の必要性」2008 年

NCAA<<http://www.ncaa.org/wps/wcm/connect/public/ncaa/about+the+ncaa>> (2012 年 8 月 25 日)

東京都スポーツ施設サービス<<https://yoyaku.sports.metro.tokyo.jp/>> (2012 年 9 月 20 日)

長井祐介の米国スポーツビジネスレポート。<<http://yusukenagai.com/>> (2012 年 10 月 4 日)

文部科学省ホームページ<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/kihonhou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/index.htm)> (2012 年 8 月 25 日)